

平成30年度

# 授業改善推進プラン



文京区立本郷台中学校

# 平成30年度 文京区立本郷台中学校 授業改善推進プラン

## 第1学年

教科	生徒の現状・ 指導上の課題分析	基本方針・ 指導の在り方	授業改善の視点	授業改善の具体策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ほとんどの生徒が意欲的に学習に取り組んでいるが、基礎・基本が身につけていない生徒も多く、特に漢字を書く力が弱い。</li> <li>○「読むこと」よりも「書くこと」「話すこと」に苦手意識をもった生徒が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒が引き続き意欲的、主体的に取り組める授業を行う。</li> <li>○「漢字、語彙力」をつけさせ、その力を試す場を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○漢字や語彙など、基礎・基本の学習の定着を図る。</li> <li>○言語活動を多く取り入れ、「話すこと」や「書くこと」に慣れさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業の最初に実施している漢字の小テストを定着させ、定期的に教科書の新出語句に関する50問テストなども行う。</li> <li>○班での話し合い活動や発表、プレゼンテーションなどの「話す」活動や、感想文や意見文などを「書く」活動の回数を増やす。</li> </ul>
社 会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○社会科授業への関心・意欲が高い生徒も見られるが、全体としては、まだまだ関心・意欲が低い。</li> <li>○小テストや定期考査に対して努力を惜しむ。全体的に中学校の学習に対する認識が甘い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒が学習内容に興味や関心をもち、より積極的に授業に参加しようとする態度を養う。</li> <li>○基礎基本的事項の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒が簡単な内容の回答でも、自分から挙手をして発言できるようにする。</li> <li>○基礎基本的事項を精選し、発展的内容と区別する。生徒に知識・理解の観点を深めさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○電子黒板を活用した授業をさらに推進し、生徒の視覚に訴える授業を実施して関心・意欲を高める。</li> <li>○基礎基本を定着させるために、小テストやノート・プリント提出の頻度を増やして家庭学習に励む環境をつくる。</li> </ul>
数 学	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ほとんどの生徒が、意欲をもって学習に取り組んでいる。</li> <li>○文京区学力テストの結果より、数学的な技能に関してはおおむね良好である。しかし、数学的な見方・考え方に関しては苦手とする生徒が多く見受けられる。</li> <li>○総合的な数学の問題解決力において、個人差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○習熟度別少人数制、基礎コースでは、基礎基本（計算処理や図形の性質の理解）の定着を図る。</li> <li>○発展コースでは、基礎基本の定着から発展的な課題への取り組みを行う。</li> <li>○両コースとも、個々の理解度を把握し徐々に難易度の高い問題に移行する。</li> <li>○お互いの意見を発表しあう言語活動を取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個々の生徒の学習意欲、課題を解決する意識を向上させる。</li> <li>○数学的な見方・考え方（応用的な問題解決能力）の育成を図る。</li> <li>○問題を解く技能（計算処理・図形の基本問題の処理）の定着を図る。</li> <li>○数量・図形に関する知識・理解を深化させ、問題解決への活用を可能にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各授業では、習得を目指す項目（ねらい）を明確にし、授業のまとめで確認を行う。</li> <li>○ワーク・プリント・ノート等の定期的な提出を通して、継続して学習する態度を育成する。</li> <li>○反復練習用及び難易度別ワークシートを作成・実施し段階をおって学力向上を目指す。</li> <li>○確認テストの実施で各自の課題を確認し、その解決を図る。</li> </ul>

教科	生徒の現状・指導上の課題分析	基本方針・指導の在り方	授業改善の視点	授業改善の具体策
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒は、まじめに授業に取り組んでいる。関心・意欲が高い生徒も見られるが、全体としては、まだ関心・意欲が低い。</li> <li>○文京区学力テストの結果より、小学校での基礎的な知識の定着が十分でない生徒が多い。さらにその個人差が非常に大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の興味・関心を喚起する。</li> <li>○基礎・基本の学習の定着を図る。単元ごとに確認テストを実施する。</li> <li>○実験・観察の技能を身につけ、科学的な思考・判断・表現力ができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○苦手な生徒にも興味をもたせる課題の工夫</li> <li>○基礎・基本を重視した演習を増やし、学力の定着を図る。</li> <li>○実験・観察のまとめおよび考察の指導で、筋道を立てた表現・科学的な考え方に気付かせ、その育成を図る。</li> <li>○知識の定着に課題がある生徒に対し、T・Tを活用して、補強を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常の身近な現象を再現したり、I T教材を効果的に取り入れ、興味・関心を高める工夫をする。</li> <li>○自分の目や手で体験・確認する実験方法をその都度確認する。</li> <li>○小テストなどを単元ごとに実施する。</li> <li>○実験・観察の目的を明確にして予想を立て、実験に取り組みせ、考察を自分で考えられるような発問を増やす。</li> <li>○理解の定着に時間がかかる生徒を中心にT・Tを一層活用していく。</li> </ul>
英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○英語への関心が高く、授業や提出物には積極的に取り組む生徒が多いが、話すことに苦手意識をもつ生徒が多い。</li> <li>○知識理解の能力は高いが、基礎を定着し復習を重ねることが課題である。</li> <li>○英語を書いたり読んだりする事に慣れ親しむ事が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コミュニケーション能力の基礎を養い、話すことへの自信をもたせ、その定着を図る。</li> <li>○繰り返し学習を行い、基礎基本の定着を図る。</li> <li>○英語を書いたり読んだりする事に慣れ親しむ、その初歩的な力を身につける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○段階的にコミュニケーション活動を行いコミュニケーション能力の基礎を養う。</li> <li>○学習したことの振り返り活動を行い、ワークやプリントと連動して復習を行えるようにする。</li> <li>○読む活動や書く活動を充実させ、生徒に達成感を感じさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コミュニケーション活動にステップを設け、進度に応じた活動を行う。</li> <li>○授業の中で、ワークやプリントを行う時間を設け、復習の時間を増やし、基礎を定着させる。</li> <li>○教科書の内容に応じたQ&amp;A、T&amp;F問題を行い、読む活動や書く活動を繰り返す。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>○歌唱、器楽、鑑賞、創作の各領域とも関心意欲が高い。男子は変声前の生徒が多く、男声の低音域の発声で苦勞している。女子は声質の薄い生徒が多く、息をより多く使う練習を必要とする。</li> <li>○音楽用語などの知識理解は、期末考査に向けた取り組みで身につけてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○パートリーダーの育成を図り、主体的に学習ができるようにする。</li> <li>○表現「歌唱、器楽、創作」と鑑賞領域を関連付けて指導する</li> <li>○合唱コンクールや発表など、一つ一つの学習項目に目標をもたせ、達成感を味わえるような流れをつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○発声やアルトリコーダーの運指、音楽理論などの基本的な技能の定着を図る。</li> <li>○それぞれの生徒が自分の思いや意図をもって表現ができるように曲想について考え、話し合う時間を増やす。</li> <li>○グループ学習、ペア学習を通じた主体的な学習がよりスムーズにできるように指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な技能を、履修する楽曲の表現活動の中で確認させ、定着させる。また、個別指導を行う。</li> <li>○教材や教具を充実させる。(楽曲教材やAV機器、アクティブボード、CDデッキタブレットなど)</li> <li>○合唱指導においては、個人達成カードを使用する。器楽指導については生徒同士の相互評価も行う。</li> </ul>

教科	生徒の現状・ 指導上の課題分析	基本方針・ 指導の在り方	授業改善の視点	授業改善の具体策
美術	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多くの生徒が意欲的に作業に取り組んでいる。座学の際、積極的に発表する生徒が多く作業だけでなく方法や用語もしっかり覚える生徒が多く見られる。</li> <li>○工夫しながら作業に取り組む生徒が多く個性豊かな作品が見られ、課題の方向性に従い、良い傾向が見受けられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○技法や用語を細かく指導し、生徒一人一人の表現方法や技能向上を目指した学習をさせる。</li> <li>○様々な美術作品を紹介したり鑑賞しりし、広い視野をもたせ、良い作品作りを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な描写力や、造形力を身に付ける指導をより行う。</li> <li>○美術作品を鑑賞し、自分の考えをしっかりとたせる。また、これを発表させる機会を設け、様々な意見や考えに触れさせる時間を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○制作する作品からどのような事が学べるか明確にする。</li> <li>○制作手順をプリントや黒板だけでなく、アクティブボード等を活用し、細かく指導していく。</li> <li>○今後、アクティブボードでより多くの様々な美術作品を紹介したり鑑賞していく。</li> </ul>
保健体育男子	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体力と基礎・基本的な運動能力が身につけていない生徒が多い。</li> <li>○元気に声を出す生徒は多いが、まだまとまりとして定着していない。</li> <li>○体力・運動能力の二極化がみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎・基本の知識・技能の向上を目指す。</li> <li>○規律ある態度を身に付けさせる。</li> <li>○個人への働きかけ、指導をより多く実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元ごとに基礎・基本の内容を明確にする。</li> <li>○開始の時間、服装と持ち物の準備を毎時間徹底させる。</li> <li>○T Tを活用し、個人への働きかけを多くする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な技能について示範し、目標とする回数・記録を提示する。</li> <li>○集合整列と更衣を迅速にさせる役割を、T・Tで分担し、教科係との前日の連絡を徹底する。</li> <li>○T・T間で、授業後に生徒の様子、次回の内容について打ち合せを行う。</li> </ul>
保健体育女子	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的・基本的な運動能力が定着していない。体力診断テストの結果にも大きな開きが見られる。</li> <li>○授業中は真面目に取り組んでいるが、体育に苦手意識のある生徒は積極性に欠ける場面が多くみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的・基本的な運動を工夫しながら繰り返し行い、運動能力の向上を図る。</li> <li>○個々の能力に合わせた目標を設定し、積極的に取り組める授業を展開する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○準備運動を行う際に補強トレーニングや柔軟運動を取り入れて、体力の向上を図りながら運動能力の定着を目指す。</li> <li>○TTを活用し、個々の生徒の能力に合わせた助言や支援を行い、積極的に取り組める態度を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習ノートやカードを活用し、自分自身の課題を発見させ、解決できるよう練習方法などを助言、指導する。</li> <li>○単元ごとに技能テストを行い、どの程度身に付いているかを確認しながら指導する。</li> <li>○T T間で話し合いながら、習熟度に応じた個別指導を徹底する。</li> </ul>

教科	生徒の現状・ 指導上の課題分析	基本方針・ 指導の在り方	授業改善の視点	授業改善の具体策
<p style="text-align: center;">技 術 ・ 家 庭</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○製作（木材加工）に向かう意欲はあるが、作業の正確さにやや欠ける生徒がいる。</li> <li>○班で作業し、わからないところは教え合う場面が見られた。</li> <li>○ミシン、アイロン、調理器具などの扱いについて経験が不足ためしている。</li> <li>○基礎的な知識や技術の復習や反復練習が十分でなかったため定着できない生徒がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的な知識や基本的な技能を定着させる指導をする。</li> <li>○作品を作り込む意識をもたせる指導をしていく。</li> <li>○学習意欲を向上させる適切な指導をしていく。</li> <li>○補習時間を設け、作業時間を確保する。</li> <li>○日常の家庭生活と結び付けて、知識や技能を習得させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的な知識や原理を理解させる。</li> <li>○基本的な技能の習得を図る。</li> <li>○作り込む意識を継続させる。</li> <li>○日常の生活の中で、学習したことを実践していけるようにする。</li> <li>○基礎的知識や技術をしっかり定着させ、応用・発展できる能力を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業の始めに、前授業の復習を行い、知識の定着を図る。</li> <li>○製作の取り組みにおいて、机間指導を丁寧に行い、自分で問題解決ができるように助言をする。</li> <li>○ミシン、アイロン、調理器具などの扱い方の経験を高めるために、家庭で行える課題を取り入れていく。</li> <li>○作業が進んでいる生徒には、遅れている生徒への助言をさせたり、新しい課題に取り組みせたりする。</li> </ul>

# 平成30年度 文京区立本郷台中学校 授業改善推進プラン

## 第2学年

教科	生徒の現状・ 指導上の課題分析	基本方針・ 指導の在り方	授業改善の視点	授業改善の具体策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全体的には関心・意欲が高く、理解力もある。</li> <li>○成績下位層（D層）において、学力差が大きく見られるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目標を明確にし、生徒が主体的に学習する指導を行う。</li> <li>○学習意欲をさらに高めるよう、1単位時間ごとの目標を明確にし、授業をデザインする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ひとりひとりに学びの達成感をもたせる。</li> <li>○学習への興味・関心をさらに高める授業を展開する。</li> <li>○学習状況や集団の特性に応じた指導の工夫をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎時、ノートに本時の振り返りを記入させる。</li> <li>○導入部分における言葉かけや教材の提示を工夫し、わかりやすい授業を行う。</li> <li>○グループワーク、ペアワーク、個別指導を充実させる。</li> </ul>
社 会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多くの生徒は主体的に学習しているが、予習課題の取り組みに対して積極的ではない生徒がいる。</li> <li>○理解度や基礎基本事項の定着度に二極化がみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒へ学習目標を明確に意識させ、目標達成に向けた段階的、系統的な指導を行う。</li> <li>○苦手意識のある生徒や進度についていけない生徒を補助する機会を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒が本時の課題をとらえ、見通しをもって学習に臨めるようにする。</li> <li>○苦手な生徒にも興味をもたせる内容の工夫。</li> <li>○家庭学習を促し、基礎基本の定着を確認する機会を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒が成就感をもてる課題に取り組ませるとともに、取組を適正に評価する。</li> <li>○苦手意識のある生徒にも基礎基本を定着させるために、小テストやノート・プリント提出の頻度を多くして家庭学習にも励む環境をつくる。</li> </ul>
数 学	<p>【授業評価アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全体の80%の生徒が意欲的に授業に臨み、87%が事前の課題を積極的に取り組んでいる。</li> </ul> <p>【都の学力調査結果より】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○8割以上の得点が全体の46.7%だが、5割以下が20%なので、点数の分布は二極化している。</li> <li>○数量・図形に関する技能・知識の問題の正答率は、70%以上なので、年間通して行った計算演習の成果が発揮できた。</li> <li>○比較・関連付けて読み取る力や、推論して解決する力の正答率は60%を行き来しているため、授業改善が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1時間毎にテーマを明確にして、家庭学で振り返りができる授業ノートをつくる。</li> <li>○少人数授業の特性を生かして、多くの生徒に発問し、生徒の理解度を点検し、躓きを未然に把握する。</li> <li>○基礎基本の徹底に加えて、発展的な学習も適宜取り入れ、単元に応じて課題解決型学習を導入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○言語活動を充実させた授業を継続して実践する。</li> <li>○個々の生徒の学ぶ意欲や課題を解決する意識を向上させる。</li> <li>○単元毎に、学習形態を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元テスト以外にも定期的に小テストを実施して、躓きを未然に把握して、授業で演習を行う。</li> <li>○グループ学習などを適宜取り入れ、資料から数量の関係を読み取るなどの課題解決学習を行い、解釈・推論して解く力を養っていく。</li> </ul>

教科	生徒の現状・ 指導上の課題分析	基本方針・ 指導の在り方	授業改善の視点	授業改善の具体策
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多くの生徒が観察・実験に意欲的に取り組み、関心・意欲が高い。知的好奇心が高い生徒が多く、理解力もある。</li> <li>○学習が進むにつれ、学力の定着度に二極化が見られるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒のさらなる興味・関心を喚起する。</li> <li>○基礎・基本の学習の定着を図る。単元ごとに確認テストを実施する。</li> <li>○実験・観察のより高度な技能を身につけ、科学的な思考・判断・表現力を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○苦手な生徒にも興味をもたせる内容の工夫</li> <li>○演習の時間を増やし、基礎・基本の学習の定着を図る。一部入試問題も入れ、応用力の向上も図る。</li> <li>○実験・観察のまとめおよび考察の指導で、発問を増やし、筋道を立てた表現・科学的な考え方の育成を強化する。</li> <li>○知識の定着に課題がある生徒に対し、基礎力の定着を強化する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身近な現象・事例と関連づけ、興味・関心が高まる授業のさらなる工夫に努める。</li> <li>○体験・確認する実験・観察は今までと同様に多くとり入れるが、その方法を精査する。</li> <li>○入試問題を取り入れた小テストなどをこまめに実施する。</li> <li>○実験・観察の目的を明確にし、考察がより深められるように発問を工夫する。</li> <li>○知識の定着に課題がある生徒に対してT・Tを集中的に配して助言・指導を行う。</li> </ul>
英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○語学に対する関心・意欲が高く、授業アンケートからも、積極的に授業に参加していると答えた生徒の割合は、約90%とかなり高い。</li> <li>○学力差が大きく4技能においては、都学力調査の結果から、聞き取る能力に長けているが基礎文法及び、「表現」の技能に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○間違いを恐れずに言語活動をさせる。</li> <li>○4技能のバランスを考えながら、授業を構成する。</li> <li>○週1回あるALTの授業では、「聞く」「話す」活動を中心に、表現の仕方を身につけさせる。</li> <li>○ペアワークや発表活動を多く取り入れ、コミュニケーション能力を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎文法の徹底と単語力の充実を図る。</li> <li>○冠詞や時制表現についての意識を高める活動を充実させる。</li> <li>○生徒への発問方法を改善したり、発表活動の方法を見直したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○既習文法事項及び1年次からの既習単語について確認テストを適宜実施する。</li> <li>○教師から生徒への発問、次にその関連事項について生徒から生徒へ発問する方法を使い、生徒が考えて発話する機会を増やしていく。</li> <li>○発表活動における、発表事項に対してプラス2～3項目全体への質問などを付加させる。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>○歌唱分野では昨年より意欲的に発声できる生徒が増えた。</li> <li>○器楽ではアルトリコーダーの運指が複雑になると、意欲的に思いや意図をもって演奏できる生徒もいたが、苦手意識が出て、あきらめてしまう生徒もおり差がついてしまった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○パートリーダーのさらなる育成を図り、曲にふさわしい表現を創意工夫し、主体的に学習ができるようにする。</li> <li>○表現「歌唱、器楽、創作」と鑑賞領域を関連付けて指導する。</li> <li>○合唱コンクールや授業内発表などで目標を持たせ、一人一人が達成感を味わえるような流れをつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○発声や音楽理論などの基本的な技能の指導を行う。</li> <li>○音色や曲想について考えたり、話し合う時間を増やし、思いや意図をもった表現ができるようにする。</li> <li>○グループ学習、ペアワークを通じた主体的な学習の指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ペアワークや個別指導で、基本的な技能の弱点を克服させる。</li> <li>○教材や教具を充実させる。(楽譜教材やAV機器、アクティブボード、パートCDタブレットなど)</li> <li>○合唱指導については、個人達成カードを使用する。器楽指導では、生徒同士の相互評価も行う。</li> </ul>

教科	生徒の現状・ 指導上の課題分析	基本方針・ 指導の在り方	授業改善の視点	授業改善の具体策
美術	<ul style="list-style-type: none"> <li>○意欲的に取り組んでいる生徒が多く、生徒作品から工夫している点が多く見受けられる。</li> <li>○1年次に学習した技術が十分習得している生徒と不十分な生徒が見られる。○課題のテーマにあったアイデアがなかなか思いつかず、作業がすすまない生徒が見受けられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○丁寧な作品づくりを心掛け、一人一人にあった指導を行う。</li> <li>○技術が十分習得できていない生徒に対し、参考作品などをみせながら個別で技術指導を行う。</li> <li>○個人にあった指導方法や制作方法を考え、生徒の制作を支援しながら自分で考えて作品をつくる指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○参考作品を見せながら制作と指導を行い、作品完成度の向上を図る。</li> <li>○課題の展開の際、技法について見本を見せながら説明し、過去に行った技法の場合でも復習を兼ねて示範をしながら指導を行う。</li> <li>○参考作品やアイデアの元となる資料を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○アクティブボードや紙プリントによる資料を充実させ、制作意欲向上を図る</li> <li>○技術が不十分な生徒に対し、見本を見せながら指導をする。</li> <li>○資料や示範を駆使しながら、机間指導を行う。特に作業が遅れている生徒や手が進んでいない生徒に個別支援を行う。</li> </ul>
保健体育男子	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体力・運動能力は全体的に低い水準にあり、さらに二極化がみられる。</li> <li>○活気はあるが、集中力に欠けるところがあり、落ち着きのなさがみられる。</li> <li>○個人への助言が不足しがちである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体力を高める必要性を認識させ、反復の重要性を理解させる。</li> <li>○授業での約束ごとを明確にし、徹底させる。</li> <li>○全体と個の指導を授業の中で、バランスよく実践していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業内での運動の場を多くなるように工夫する。</li> <li>○集団での行動が未熟な場面は、できるまで徹底させる。</li> <li>○個別の指導助言を多くなるように工夫し、評価する言葉かけを工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○準備運動をはじめ、授業内での活動の場が多くなるように工夫する。</li> <li>○集団での行動を授業開始から徹底させ、導入に重点をおく。</li> <li>○TTを活用し、個人への指導・助言をより多くする。</li> </ul>
保健体育女子	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的・基本的な運動能力が身につけている生徒とそうでない生徒との差がみられる。</li> <li>○運動が苦手な生徒も含め、非常に真面目に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的・基本的な運動を工夫し、個々の運動能力に合った目標を設定しながら授業を展開していく。</li> <li>○現在の取り組む姿勢を後押ししながら、さらに意欲をもたせるための学習を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自己の課題を認識し克服する態度を育てると共に体力の向上を図る。</li> <li>○TTを活用し、個々の生徒の能力に応じた助言や支援を行い、意欲的に取り組める工夫をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習ノートやカードを活用し、課題の発見と解決を促す。</li> <li>○単元ごとに技能テストを行い、どの程度身につけているかを確認しながら助言し、意欲を引き出していく。</li> <li>○TT間で話し合いながら、個別指導をきめ細かく行っていく。</li> </ul>



教科	生徒の現状・ 指導上の課題分析	基本方針・ 指導の在り方	授業改善の視点	授業改善の具体策
<b>技 術 ・ 家 庭</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○製作に（ラジオの製作）に意欲的に取り組む生徒が多い。</li> <li>○一斉指導の後、机間指導を細かく行っているが、作業の進度に差がでてしまうところがある。</li> <li>○学習したことを活かして、生活の中に取り入れる機会が少ない。</li> <li>○調理など作業経験の違いによる技術差があり、到達度に差が出てしまう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的な知識と基本的な技能の定着を図る。</li> <li>○学習意欲の向上のため、適切な助言をする。</li> <li>○補習時間を設け、作業時間を確保する</li> <li>○長期休業中などを利用して、献立作成や調理に挑戦させる。</li> <li>○実践的、体験的な学習活動を通して、経験する場面を増やし、技能を向上させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的な知識や原理を理解させる。</li> <li>○基本的な技能を習得させる。</li> <li>○かんたんな食材を用いて、食品の扱い方になれる。</li> <li>○ICT機器を活用する。</li> <li>○家庭生活の中での経験が不足している現状をなくすために、家庭で行える課題を取り入れていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○製作の取り組みにおいて、可能な限りグループで作業ができるように班編成を考えて、作業の進度を整える。</li> <li>○アクティブボードや書画カメラなどのICT機器を利用して、作業内容の説明の時間短縮と基礎知識の定着を図る。</li> <li>○長期休業中の宿題として「献立のたて方、実習、考察、レポート」を取り入れていく。</li> <li>○授業で製作する作品について生活に活かせるものを題材にできるように工夫する。</li> </ul>

平成30年度 文京区立本郷台中学校 授業改善推進プラン

第3学年

教科	生徒の現状・指導上の課題分析	基本方針・指導の在り方	授業改善の視点	授業改善の具体策
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○昨年度に比べると、学習に対する意欲の向上が見られ、少しずつ学力を伸ばしている。</li> <li>○基礎学力が身につけていない低学力の生徒の、集団内における差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○すべての観点において、基礎的基本的な学力の定着を図る。</li> <li>○進路を見据えて、生きる力に直結する「話すこと」「書くこと」の指導を重点的に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「話すこと」に関する学力の育成</li> <li>○「書くこと」に関する学力の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業の最初に、意見発表に時間を設定し、話す力を伸ばす。</li> <li>○週に1回、課題作文に取り組み、書く力を伸ばす。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の社会科授業への関心・意欲は高いが、それが基礎的・基本的な学力の確実な定着につながっていない。</li> <li>○学習そのものに意欲をもてないでいる生徒との二極化がみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教材・教具の工夫を図り、生徒の作業的な学習を取り入れて関心や意欲をさらに高めるとともに基礎的・基本的学力の定着を図る。</li> <li>○苦手意識のある生徒や進度についていけない生徒を補助する機会を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的・基本的な学習内容について、生徒に繰り返し内容を確認させ理解を深めさせる。</li> <li>○苦手な生徒にも興味をもたせる内容の工夫。家庭学習を促し、基礎基本の定着を確認する機会を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○電子教科書の活用とeラーニング学習の推進により、生徒の基礎的・基本的な学力の定着を図る。</li> <li>○苦手意識のある生徒にも基礎基本を定着させるために、小テストやノート・プリント提出の頻度を多くして家庭学習に励む環境をつくる。</li> </ul>
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒授業評価アンケートによると、全体の90%の生徒が授業に意欲的に臨んでいる。また、課題をやった授業に臨んでいるかについては、あてはまるが67%、おおむねあてはまるが30%となっている。この30%の中には基礎・基本がまだしっかり定着していない基礎コースの生徒が多く、課題を一人でやりきれないためと考えられる。</li> <li>○全国学力調査では、領域別・観点別ともに各項目東京都・全国の平均正答率を上回っている。</li> <li>○発展コースの生徒でも数学的な思考を要する問題を解決する力が全体的に弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の関心・意欲を引き出すような授業内容や展開を実践する。</li> <li>○少人数習熟度別授業の特性を生かし、毎授業で多くの生徒に発言の機会をもたせる。</li> <li>○課題にしっかり取り組ませ、基礎・基本の定着を図る。</li> <li>○数量や図形の知識を活用し、数学的な思考で発展課題を解決しようとする姿勢を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各授業で、個々の生徒が課題にしっかり取り組み、学習意欲の向上を図る。</li> <li>○全ての生徒が定期考査や各種テストに向けての学習課題（宿題）にしっかり取り組み、授業に臨む姿勢を確立する。</li> <li>○主体的・対話的で深い学びの視点から、習熟度に応じた数学的言語活動を取り入れた授業実践に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元テストや復習テストの実施と、それに向けた課題を提示し、短い周期で復習の機会を与え、基礎的・基本的な学力の定着を図るとともに、家庭学習の習慣を身につけさせる。</li> <li>○授業観察やテストの結果、課題の達成度を点検し、個々の躓きの個所や度合いを把握し、個に応じた課題や取り組み方を指導・支援する。</li> <li>○習熟度に応じた課題と発問の仕方、発表方法を工夫し、学習意欲の向上を図る。</li> </ul>

教科	生徒の現状・ 指導上の課題分析	基本方針・ 指導の在り方	授業改善の視点	授業改善の具体策
理 科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全体的には観察・実験に、意欲的に取り組んでいる。</li> <li>○計算やグラフ問題、資料分析等の数学的要素を苦手とする生徒が多い。</li> <li>○苦手な問題や課題に対して自主的に取り組めない生徒が多い。</li> <li>○レポート等で自分の考えを表現し、まとめる力のある生徒が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の興味・関心をさらに喚起する。</li> <li>○数学科との情報共有と協力のもと基礎・基本の学習の定着を図る。また、单元ごとに確認テストを実施する。</li> <li>○家庭学習の習慣を身に付けさせるために、課題を定期的に提示する。</li> <li>○実験・観察の技能を身に付け、科学的な思考・判断・表現力を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○演習の時間を増やし、基礎・基本の学習の定着を図るとともに、入試演習をさらに取り入れて応用力の向上も図る。</li> <li>○実験・観察のまとめおよび考察の指導で発問を増やし、筋道を立てた表現・科学的な見方・考え方の育成を強化する。</li> <li>○レポート、課題を増やし、家庭学習の習慣を身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○興味・関心が高まる授業のさらなる工夫に努める。</li> <li>○自分の目や手で体験・確認する場を多くする。</li> <li>○小テストなどをこまめに実施する。</li> <li>○実験・観察の目的を明確にし、予想を立てて実験に取り組む、考察が深められるように指導する。</li> <li>○入試演習をさらに取り入れて、応用力の向上に努める。</li> </ul>
英 語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○英語に対する関心意欲が高い生徒が多い。</li> <li>○話すことや書くことに苦手意識のある生徒が多い。</li> <li>○知識理解の観点において基礎力が身につけている生徒と定着していない生徒の差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○4技能をバランスよく定着させ、自分の考えを表現できるようにする。</li> <li>○ALTの授業において、自分の考えを書いたり話したりする経験を多くもたせる。</li> <li>○繰り返し学習を行い、基礎基本の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業において、4技能をバランスよく取り入れて、英語の実用力を高める。</li> <li>○ALTの授業では、自己発信力、受信力を高められるような場面設定を多く取り入れていく。</li> <li>○学習したことの振り返り活動を行い、定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文法、単語、発音をベースに4技能がひとつひとつ確認できるプリント学習を行う。</li> <li>○ALTの授業においてコミュニケーションテストを行い、書く、話す能力の向上を図る。</li> <li>○Can-Doリストを用いて、生徒自身で進捗を確認し、勉強の指針を立てられるようにする。</li> </ul>
音 楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>○歌唱分野では、全体的に意欲的に取り組んでいる生徒が多い。鑑賞においても音楽鑑賞教室に関したオーケストラについての学習に興味関心をもって取り組んでいた。</li> <li>○創作において、記譜の知識理解ができていない生徒がいるので、その点が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○パートリーダーの育成を図り、曲にふさわしい表現を創意工夫するため主体的に学習ができるようにする。</li> <li>○表現「歌唱、器楽、創作」と鑑賞を関連付けて指導する。</li> <li>○行事や授業内発表など目標を持たせ、一人一人が達成感を味わえるような流れをつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○発声や楽器の奏法、音楽理論などの基本的な技能が着実に身につくように指導を行う。</li> <li>○音色や曲想などについて、考えたり、話し合ったりする時間を増やし、思いや意図をもって表現ができるようにする。</li> <li>○グループ学習、ペアワークを通した主体的な学習が行えるよう指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○記譜法や音楽理論など難解な内容は個別に指導したり、実際の音楽と関連付けたりして理解させる。</li> <li>○教材や教具を充実させる。(楽曲教材やAV機器、アクティブボード、パートCDタブレットなど)</li> <li>○合唱指導においては個人達成カードを使用する。器楽指導では生徒同士の相互評価も行う。</li> </ul>

教科	生徒の現状・ 指導上の課題分析	基本方針・ 指導の在り方	授業改善の視点	授業改善の具体策
美術	<ul style="list-style-type: none"> <li>○これまで学んだ技術を生かしながら作品を作り、意欲をもって作業に取り組んでいる。</li> <li>○技術はあるが、良いアイデアが浮かばず、なかなか作業が進まない生徒がいる。作業が早い生徒と差ができています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1、2年生で学んだ技術や知識を生かした作品づくりをしながら「個性」溢れる作品づくりを行う。</li> <li>○よりよい作品づくりのために、参考作品などを見せながら一人一人にあった指導をする。</li> <li>○生徒間で制作過程などを見せ合い、交流の機会を設ける事により、作品制作の手掛かりにさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○より、「自分らしさ」を引き出すために、自分の趣味や好きなものを引き出したり表す機会を設ける。</li> <li>○参考作品を増やし、アイデアを出す機会も増やしていく。より作品を客観的に見て、作品の完成度向上を図る。</li> <li>○アイデアが思いつかない生徒には、個別指導を行い、作品作りのきっかけを与え、制作を進めさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○作品とワークシート等を使って作品の制作前もしくは後に、自分の趣味などを書かせたり、また発表する機会を設ける。</li> <li>○作品と「自分」の関係性を明確にする。</li> <li>○アクティブボードや印刷物による作品の紹介をより多くする。</li> <li>○一人一人の生徒への机間指導を増やす。特に手が止まっている生徒への指導を増やす。</li> </ul>
保健体育男子	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体力については依然として低い状況がみられる。</li> <li>○授業規律は定着し、落ち着きとまとまりがみられてきた。まじめだか積極さに欠ける部分がある。</li> <li>○少数だが積極さや集中力に欠ける生徒がみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体を動かす楽しさを味わわせながら、活動する場面を増やしていく。</li> <li>○体育実技と理論、保健分野との関連を図りながら運動する習慣についての重要性を説明する。</li> <li>○全体と個人への指導をバランスよく行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体力を高める必要性を認識させ、時間内の活動時間をより多く増やす。</li> <li>○技能の上達を通して知識の必要性を実感させる。</li> <li>○TTを活用し、個別指導を活かしながら、生徒の主体的で対話的な学びにつなげていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎時間の見通しを明確にすると共に反復の運動を工夫する。</li> <li>○学習ノート・カードを利用し用語や練習法の理解を深める。</li> <li>○単元によっては、グループ活動を中心に進め、対話的授業を多く取り入れる。</li> <li>○TTを活用し、習熟度に応じた個別の指導と全体の指導を連携して行う。</li> </ul>
保健体育女子	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的・基本的な運動能力が身につけていない生徒が多い。</li> <li>○全体的に意欲的に取り組む生徒が増えてきた。しかしその反面、運動が苦手な生徒は、消極的な活動をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的・基本的な運動能力を身に付けるために、さらに一人一人が運動する時間の確保を目指し、効率よい授業を展開する。</li> <li>○個々の能力に合わせた助言や支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○それぞれの課題を認識させ、課題を達成するための活動内容や運動時間を確保し、体力の向上を図る。</li> <li>○TTを活用し、特に運動が苦手な生徒たちを引き上げていけるように、多くの言葉かけを行いながら、支援していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習ノートやカードを活用し、課題の発見と解決を繰り返し促す。</li> <li>○単元ごとに技能テストを行い、どの程度身に付いているかを確認しながら指導する。</li> <li>○TT間での話し合いを授業終了時ごとに行い、個別指導に生かしていく。</li> </ul>

教科	生徒の現状・ 指導上の課題分析	基本方針・ 指導の在り方	授業改善の視点	授業改善の具体策
<p style="text-align: center;">技術 ・ 家庭</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○製作（プログラミング）に意欲がある生徒が多い。</li> <li>○課題のプリント、教科書等の知識が定着しない生徒がいる。</li> <li>○身近に幼児がいる生徒が少ない。（触れ合う機会が少ない）</li> <li>○時間数が少ないため基礎的技術の習得が難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的な知識や基本的な技能を定着させる指導をする。</li> <li>○集中して作品を作る意識をもたせる指導をする。</li> <li>○補習時間を設け、作業時間を確保する</li> <li>○実際に幼児と触れ合う指導をする。（幼児との触れ合いに関心をもたせる）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的な知識や原理を理解させる。</li> <li>○基礎的な知識や技術を実習・体験学習を通して習得させる。</li> <li>○授業の自己評価を行い、理解度を確認させる。</li> <li>○課題をもたせて学習に取り組みさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○製作の取り組みにおいて、机間指導を丁寧に行い、問題解決のための助言をする。</li> <li>○知識の確認のためのワークシートを作成する。</li> <li>○作業が遅れている生徒には、放課後等に補習を行う。</li> <li>○幼稚園を訪問し、幼児と触れ合う。（幼児の心身の特徴を知るとい課題をもち、学習に取り組みさせる）</li> </ul>